

チェーンソー受講生のみなさんから感想が届いています！

水口 勝彦（1 班）

『小雨の降る中、心地良い緊張感と新たな学びにワクワクしながら臨みました。安全を第一にチェーンソー操作、作業が決められておりすべて納得のいく教えに感動さえ覚えました。道具の整備はもちろん、安全装備、バーの握り方、トラブルを最小限に抑える立ち位置、伐倒の心構えなど作業にあたるチェックポイントは勉強になり経験を積み自分のものにしたい！と心に決めた 1 日でした。』

西村 博昭（5 班）

『今回の講習を通して、安全作業の基本を改めて理解することができた。特に、フェリングマーク(ガンマーク)を用いて正確に伐倒方向を判断することの重要性を学び、作業者自身の安全だけでなく、周囲の人や環境を守るうえでも欠かせない要素であると感じた。今後は、今回学んだ知識を実際の作業に確実に活かし、基本動作を軽視せず、常に安全確認と装備管理を徹底していきたい。』

木原 有帆（1 班）

『服装の基本から受け口追い口の作り方に至るまでご指導いただきました。伐倒作業では安全確認の方法・ロープの使い方・運用荷重・耐久荷重・チルホールの使い方・もやい結び。目立ての基本を学びました。取扱書からの私も優しい先生のご指導にて受け口を作ることができました。何より安全に確実に伐倒することは忘れません。今後も例会に参加しながら少しずつ成長していけたらと思います。』



広瀬 祥子（4 班）

『チェーンソー講習会に参加し、まさに「目からうろこ！」の一日でした。井本さんの説明はどれも分かりやすく、基本を知るだけで伐倒がこんなにスムーズになるのかと驚きました。自分の癖や体の使い方を見直すことで、作業がもっと楽に、そして安全になると感じています。もちろん、チェーンソーは扱いを誤ると危険な道具。だからこそ、日ごろの整備を大切にすることの重要性も実感しました。最後に、このような貴重な機会をいただき、本当に感謝しています。』

徳永 淳（2 班）

『まだまだ知らない事の方が多いと感じました。チェンブレイキは右手リアハンドルを下げれば簡単にロック出来る事。会合線を含める際にはスロツトルは緩めてひとかきひとかきゆっくり行う事。追い口の高さは下から指 2 本以上あれば良い事等、新しい発見ばかりでとても有意義な時間でした。最も衝撃を受けたのは自分のチャップスが最新の安全基準に適合していなかった事。買ってからまだ一年も経ってないのに。』

高田 信昭（1 班）

『受講生の実技に応じて、その都度、的確なアドバイスをいただき、安全確保の重要性を含め初心者にもわかりやすい研修会でした。知識を習得することも大切だけど、なにより実際にチェーンソーを握って経験を重ねていくことが上達の秘訣だとあらためて感じています。小川フィールドではたくさんの伐木予定があると聞いてますので、機会があれば積極的に参加して、いつの日か上達した勇姿を井本講師にも見てもらえるよう頑張ります。』



山地 秀司（5 班）

『もりメイトに入り、チェーンソーを使い森の再生活動に自分の第二の青春を皆さんと楽しく過ごしています。そのためには安全が第一と考えます。特にチェーンソーについては実際始動してからは、5メートル以内に近寄らない近寄せないことで、自分がどのようにやっているか、一番気になっていましたが、今回、井本先生にそばでじっくりチェックしていただき、次の 3 項目が頭に残りました。』

- ① ハンドルの握り手が親指と人差し指が離れている。水平切りの時は膝の上に本体を置き、親指でスロツトルレバーを操作する。
- ② 会合線作り方で、斜め切りをした後、水平切りをする際、最後まで切らず、一歩手前で切るのをやめ、バーを傾けて受け口の木を取り除く、最後に低速で会合線が一直線になるように、かぐるように削り調える。
- ③ 目立てと整備は安全第一の一歩だと思っていますので、実際にいろんな器具を使用して目の前で詳しく教わりましたこれからも楽しく活動していきたいと思っていますので、先生に教わったことを実践していきたいと思っています。』